

Privacy Policy/Preference Manager (PPM)

KDDI 総合研究所は、ユーザー中心の思想に基づいてパーソナルデータ提供に関する設定情報を安全に管理し、設定情報に応じてパーソナルデータ提供の適切なコントロールを支援する機能からなる PPM (Privacy Policy/Preference Manager) を世界で初めて実現した。

本研究開発では、スマートフォンや IoT 機器などから収集されるパーソナルデータの取り扱いに関する課題に早期に着目し、個人情報保護法改正や欧州 GDPR 施行以前から、同意情報やプリファレンスの管理、これらに基づくコントロールの方式、規約表示インタフェースなどの検討を進めてきた。PPM により、ユーザーが安心安全にサービスを利用し、事業者が安心安全にパーソナルデータを利活用するための環境整備が容易となる。また、本研究開発では、スマートモビリティ実証を始め、14,000 世帯を対象とした大規模 HEMS 実証、日欧 14 機関の連携によるスマートシティ実証 (iKaaS プロジェクト)、スマートレシート実証、24 社が参加した IoT デバイス/プラットフォーム実証など、多数の実証により、PPM の有効性や受容性を確認している。

PPM は、KDDI の提供する au ID を使用するサービスにおいて、パーソナルデータの利用などに関する同意の管理機能として採用されている。それらの機能は SaaS サービスとして事業者向けにも提供している。また、海外での普及促進を目指し、oneM2M、ITU-T、ISO において本成果の国際標準化を実現している。ITU-T では、PPM のようなプライバシー保護機構は前例がないにもかかわらず、他の参加国からの賛同を得て標準化された。oneM2M については、PPM に関連した多数の展示や講演、書籍の執筆、オープンソースプロジェクト OCEAN へのソースコード提供などを通して、その普及に貢献した。

ISO における標準化では、PPM の運用指針が確立され、PPM が国際的なプライバシー保護のフレームワークとして普及することが期待される。

対外発表では、世界最高峰の国際会議 The Web Conference (WWW) 2018 において Best Demo Award を受賞している。さらに、iKaaS プロジェクトの成果を国際会議 EuCNC2017 で展示し、Best Booth Award を受賞している。加えて、PPM の研究開発や実用化に関する取り組みが評価され、2020 年度に前島密賞、2024 年度に SCAT 表彰会長賞を受賞している。